

特異日という言葉を天気予報で聞くことがある。ウイキによると、その前後の日と比べて偶然とは思われない程の高い確率で、特定の気象状態（天気、気温、日照時間など）が現れる日となっている。

では長沼の特異日はいつになるのか。ドンピシャの日には断言できないが、6月1日前後がその日になるようだ。昨年は5月31日に32mmの降水があった。大したことがないように思われるが、ほぼ1時間に満たない時間の降水量になる。一昨年は6月3日に108mmの降水があった。同じく大したことはないと思われるが、3時間でこの降水量だからやはり被害はあった。

この連作障害を なんとかなくしたい

何が問題になるのか？ この時期は大豆の播種作業の下真ん中の日程になる。播種してすぐであったり、発芽してそこそこの大きさであれば問題ないが、播種した大豆の頭が地面から出るくらいにこの短時間の大雨に当たると発芽障害になり、播き直しやその後の生育に著しく影響を与えることになる。ここまではそんな自然現象もあつての農業と理解しているが、ここからは特定の担当者向けの会話になる。

豊かでしつかりした

農政が存在する日本に感謝する実例をお話したいと思う。麦の後にソバを栽培してもそれなりの交付金制度があるが、お金だけの話ではない。なんといっても麦の連作防止にもすごく効果があるのだ。麦は大豆よりも面積当たりの労働時間が少なく、機械化しやすい、収入も50%以上高い。しかし続けて同じ畑で同じ作物を2年以上栽培すると、病気が発生するなどの理由で収量減がはつきりとわかる。でも手間がかからず、国民の安全・安心に寄与できるGM大豆は栽培できないのでやっぱり麦を栽培したい。なんとか魔法の薬を使ってこの連作障害をなくしたいと考えるが、簡単に対処法が見つからなかった。

大豆の生育中に麦を散播する技術は確立しているのです、ちょっと考えを変えてみた。ソバの生育中に麦を散播したらどうなるのか？ ハイ、上手くいきました。9月15日くらいのソバがガンガン生育しているところにプロキヤスで130kg/haくら

Vol.110 増殖が始まった!



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

い散播する。翌年収穫された麦を見るとまずまずの出来。連作の麦だったら倒伏しやすかったり、実が細くなったりするが、そのようなことにはならなかった。経験則になるが、違う作物であるソバの中に麦を栽培することと、単純に麦↓麦ではやはり結果に違いがあるようだ。だから麦後のソバ栽培でも交付金制度が存在することは、麦の生産向上につながるかと確信する。

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

だが昨年の8月17日の98㎜、実際は1時間で34㎜の降水はソバの発芽、生育を低下させることになった。

その結果、ソバの収量は悪かったが、ソバ中に播種した麦の生育は良かったのでトータルを考えると明らかにプラスとなるが、上手くいくと面白くないと考える方たちも存在するようだ。今年の春の農林水産省のメニューに麦後ソバの交付金の額が明示されていないのだ。なんでも地域のなんとか協議会で決めることになりそう。でもまた協議会だ。別に喧嘩を売るつもりはないが、本当にやる気のある生産者の方向を向いているのか、いつもの仲良しグループのローカルルールを助長させることにならないのか一抹の不安を感じるのは私だけだろうか。

なんでも私が麦後のソバの面積を増やせば他の生産者の交付金が少なくなり、私が麦後のソバの面積を少なくすると他の生産者に交付金が多く当たるので、悩んでいると聞く。農水のみなさん、是非とも麦後ソバのような麦の生産意欲を向上させる政策にご理解くださいね。

ジョンディアのストローチョッパー

話題を変えて麦とソバ関連でも一つ。北海道の夏は短いので麦収穫

後のソバの播種は早いほうが良い。やはりそこにはひと作業しなければならぬことがある。コンバインで収穫された麦の残さ物処理である。

麦の収量と同じくらい重量があると言われる麦わらはソバ播種の物理的な邪魔になる。そこでトラクターでけん引されたストローチョッパーと言う機械で、麦わらを細かく切断することによって畑の表面の残さ物をなくす作業を行なう。数年前までこのストローチョッパーはヨーロッパ製の作業幅が1・8mくらいのチャイニー性能の物だった。ネット検索するとアメリカ製ジョンディアのストローチョッパーが目にとまった。しかし本当に日本の麦やコーンの残さ物でも粉々になる性能を持っているのか不安になった。そこになんとなんと！私の不安を払拭してくれる話が飛び込んできた。

それは町内で私より20歳以上若い生産者が、4・5m幅の私が狙っていたアメリカ製ジョンディアをすでに使用していると言う話を聞きつけた。すぐ彼に会う機会があり、「お金を支払うので貸していただけませんか？ なんだったら作業をお願いできないだろうか？」と懇願した。彼は快く「はい」と言っていた。彼を改めてお願いした時も快く了解していただけたと思っていた。

作業数日前に日程を決めるために携帯に連絡したところ、なぜかつながらない。翌日に電話をしてもやはりつながらない。おかしいなと思

う気持ちと、間違いなく相手には番号が表示されているのに返事がないことに疑問を感じた。数カ月してあの方が事情を話してくれた。「トラクターと一緒にストローチョッパーを貸すのは良いけどストローチョッパーだけだと嫌がった」と言う単純な理由だった。

なぜ事情を素直に言ってくれなかったのか、お互いに困ると感じなかったのか。今後、彼とは農業について語り合うことはないだろうし、彼の子供たちも彼の親と同じような一種異様な行動を取ることに疑問を抱かない町民になるのだろう。

同じアメリカ製の機械を使うことができて英語もできず、ましてや昔から日本語の会話能力が劣っている人間の未来は決まっている。…などと思っても決して口に出してはいけないのが普通の大人の対応なのだろう。

小作人根性を増殖させてしまった責任

だが私はヒール・ミヤイである。その後、彼と同じ4・5m幅のストローチョッパーだと彼を威嚇したこ

とにならないので、6m幅のストローチョッパーにしようとしたが、従業員で20年働いている伊藤と8年目の三田から、「広すぎて道路通行に支障が出ます！」と言われ、同じ幅のストローチョッパーをアメリカから購入した。

いやー、素晴らしい！ 同じ馬力のトラクターで倍の作業が出来て、作業スピードも速いんだから文句の付けようがない。彼もこんな素晴らしい作業機をこっそり自分だけの秘密にしたかったのでしょうか。ではこのような良い物をヤンマーさんは販売しないで、チンケなヨーロッパ製をまじめな生産者に販売するのだろうか。まっ、大人の事情があるのでしようね。

なんだかんだで、私より20歳以上若い彼には申し訳ないことをした。きつと私の金髪ブルーアイ大好きチームが彼をあそこだけではなく、心まで畏縮させてしまったのだろうか。彼はお金では動かない精神は立派だが、コミュニケーション教育を受けていない多くの生産者の本性を露呈させてしまった。それと、彼のような小作人根性をダラダラと繁殖させてしまった責任の重大さにやっとな気が付いた自分が情けない。心配するな、君だけに言っている訳ではない。わかるね、その君(達)。